

京都大学

## 和歌山研究林返還記念イベント 「100年目からの新たな歩み～99年を振り返る～」

京都大学フィールド科学教育研究センター

2024年11月28日(木)に有田川町清水文化センターにおいて、和歌山研究林地上権返還記念イベント「100年目からの新たな歩み～99年を振り返る～」を開催しました。

和歌山研究林は、1926(大正15)年1月に、和歌山県有田郡八幡村の海瀬氏所有の山林564haに、99年間の地上権が設定されたことに始まります。1942(昭和17)年には同じく海瀬氏所有の隣接する山林が追加設定され、約840haにわたる広大な森林を大学での教育研究に活用してきました。2025(令和7)年1月に地上権設定の期限を迎えることになり、契約延長を含め、様々な可能性を検討してきましたが、諸般の事情により99年間の期限をもって、所有者(現在はマルカ林業株式会社)に返還させていただくこととなりました。

99年間にわたる教育研究について、所有者や地域の皆様へのご報告とお礼を兼ね、有田川町様と共催の形で、「100年目からの新たな歩み～99年を振り返る～」と題したイベントを開催した次第です。本イベントには、有田川町の林業や教育に関わる地域の皆様や、かつて和歌山研究林で研究を行った卒業生、研究林に勤務してくださった職員OBの皆さんにもご参加いただき、終始和やかで前向きな会とさせていただくことができました。

第1部では、有田川町の中山正隆町長にご挨拶いただき、担当教員である長谷川尚史准教授からの概要説明の後、和歌山研究林で長期的に行ってこられた生態学研究センターの佐藤拓哉准教授から、「森と川と海をつなぐ細い糸ー和歌山研究林での大規模実験の日々」と題し、和歌山研究林だからこそ可能であった世界的な研究についてご紹介いただきました。またマルカ林業株式会社の実業部長海瀬隆太郎社長にもご登壇いただき、京大総長からの感謝状を贈呈しました。

続く第2部では、「森林と教育：地域の未来と大学への期待」をテーマに、長谷川准教授の司会で、有田川町の中平教育部長、上田林務課長、清水森林組合道上組合長、マルカ林業海瀬社長と和歌山研究林徳地林長とで、パネルディスカッションを行いました。パネラーの皆様から有田川町と研究林のつながりについて、これまで研究林で行ってきた小中学生や分校の高校生への出前授業や森林体験などを高く評価していただき、急速に過疎化が進行している当地域において、今後も京都大学が積極的な関わりを続けることや、林業に関しても大学の知見を地域に還元していくことへの期待が語られました。

和歌山研究林は林業の先進的な地域であるため人工林の造成について教育研究するように設定された場所で、これまで樹下植栽をはじめ人工造林などについて多くの研究が行われてきました。学生たちは、実際の自然環境を通じて、環境科学や生態学、持続可能な開発について学び、実習を通じて実践的な経験を積むことができました。人工造林が主流でなくなった近年では、造林した人工林のモニタリングだけでなく、環境省のモニタリングサイト1000のコアサイトとして森林動態の長期モニタリングや、佐藤准教授のアマゴによる森と川のつながりの研究など多くの研究がなされてきました。地上権をお返しした後は、常勤職員の配置がなくなることや林道の問題などで現地での利便性は低くなるものの、なんとか研究を続けていけるような手続を進めています。和歌山研究林で2002(平成14)年に始まった地域の高校生への教育プログラムであるウッズサイエンスも、有田川町や和歌山県、さらには地域の林業事業体の皆様とともに実施していくことになっています。今後も地域との連携を絶や

さず、次の 100 年につなぐ京都大学の窓として活動する和歌山研究林を、引き続き、どうかよろしくおねがいたします。



第1部 感謝状贈呈



第2部 パネルディスカッション